

2016.5.23.

個人情報の取り扱いについての指針

立教大学 現代心理学部 心理学研究倫理委員会

近年、インターネット上での情報保護環境は急速に厳しさを増しています。パスワードを盗むこと、破ること、他人のアカウントになりすますこと、PCを遠隔操作することなどの技術が発達し、電子化された情報の脆弱性が高まっています。そのため個人情報を扱う際には極めて慎重な対応が求められます。

しかしながら実際に研究を実施するためには、データを電子化して保存し、処理しなければならないことが生じるでしょう。その際には、電子化したデータファイルにパスワードをかけ、IDを記号化して管理することは、最低限の倫理的な対処です。しかしそれだけでは不十分です。個人情報に該当するデータ（面接の録音、逐語文書など）を扱うときは、必ず以下の手順を踏んでください。

- 1) 1次データを USB メモリ、外付けハードディスクなどの記憶媒体に保存する。
- 2) 1次データを用いて処理を行う時は、インターネット接続を切ったコンピューターに接続して処理作業を行う。
- 3) 作業後は、1次データが入った記憶媒体を鍵のかかる場所に保存する。
(なお、実験のデータのような、個人が特定できず、プライバシーにかかわる可能性が低いものはこの限りではありません。)

さらに、研究上止むを得ず個人情報（名前や連絡先など）を扱うときは、以下の手順を踏んでください。

- 1) 個人情報、ならびに個人情報とデータを連結する対照表は、プライバシーを保護するために、電子化せず、必ず紙媒体の形にしておく。
- 2) 個人情報、ならびに個人情報とデータを連結する対照表は、鍵がかかり研究者しかアクセスできない場所に保管する。

具体的な方法などが不明な場合は、事務局担当者（村田課長）を通じて倫理委員会にお問い合わせください。